

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	くらはらむねたか 倉原宗孝 はが		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	あべこうじ 阿部晃士	岩手県立大学 総合政策学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域環境調査実習	IWKa-081001-0	20人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：今日限界集落などの言葉に見るように、中山間地の集落・コミュニティ維持が全国的に模索されているが、学生自ら現地観察や対象地区住民と話しながら、情報の収集・整理、課題解決の為の提案作成・発表など、一連の調査活動を行った。調査にあたり、日頃若者と接することが少ない地元住民にとって、学生に触れあうこと自体が新鮮な刺激となっていたようだし、そうした学生主体ゆえに採集できた情報もあったと思われる。また提案では、現代の若者が敬遠しがちな中山間地の魅力・自信を触発する内容が学生独自の視点から提示され、そのまま実践し得ること、地元関係者の意識・認識を触発する内容など評価される。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：「藪川の暮らし、資源、地域づくりを考える一本州一寒いまち「藪川」における多様な資源の整理と分析—/中山間地の小集落における生活の実態調査、歴史・自然・文化など地区に潜在・顕在する諸資源の収集・分析、それを活用した地域活性化の提案・発表

2. 調査の内容/概要：貸し切りバス利用による現地観察、デジカメ等による現地の情報収集、地元住民へのヒヤリング調査、資料・ネット等による情報の収集・整理、提案作成と発表

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：対象地は近年県庁所在地である盛岡市と合併した地区であるが、調査テーマにもあるように本州一寒い地区とされる中山間地で集落・コミュニティの維持が危惧されている。そこでの現地観察、また地元関係者の紹介による地区に詳しい古老達へのヒヤリング調査が行われた。

4. 主な調査項目：現地に詳しい関係者案内による現地観察、地元関係者より選定・紹介いただいた対象者 (地区の歴史・生活に詳しい高齢者住民5人) 及び現地で接触があった住民等へのヒヤリング調査、資料・ネット等による情報収集、学生相互の議論と提案作成、発表

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：現地での観察調査、デジカメによる視覚的情報の収集、ICレコーダー等活用によるヒヤリング調査

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008年11月28日～12月19日 (計4回)、盛岡市 (旧玉山村) 藪川地域、20人

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：現地観察調査では、当日悪天候であったこと、現地移動に時間をとられたこと等から少し早足の作業であった。ヒヤリング調査は対象者とも打ち解けて貴重なデータが収集できた。資料・ネット等による情報収集は想定した内容が遂行できた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：既存資料と照合しながら確認した。議論の中で独自に解釈を加えつつ、集落維持・活性化に向けた学生らしい提案が創造できた。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：自然・歴史・生活など多岐にわたる地区の資源を収集し、集落・コミュニティ維持が危惧される地域に対して住民・関係者を触発する学生らしい提案作成に向かえたことが評価される。

10. 報告書刊行の予定と概要：特に予定は無い。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。